「いわての復興教育推進事業（いわての復興教育スクール〈沿岸〉）」成果報告書

学校名：洋野町立角浜小学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

本校は、岩手県の最北端に位置し、学区は久慈平岳の支脈、階上岳が徐々に東方に傾斜したなだらかな丘陵が広がる太平洋に面した中にある。学区にある角浜漁港では、天然のワカメやコンブをエサにして育つウニ、アワビが豊富であり、地域の主たる産業となっている。先の大震災で洋野町は住民の避難対応がよかったことと、高さ１２ｍの防潮堤があったことで三陸沿岸の市町村では唯一、人的被害がなかった。しかし、角浜の漁場、漁業施設等に壊滅的な被害を受けた。震災後、ウニの増殖溝の増築等、徐々に復興を進め、現在では、その生産量も安定してきている。

本校では、この豊かな海を素材の中心とした体験的探究的な活動を通して角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力、願いへと徐々に視点を広げ、「ふるさと角浜」を誇りに思う気持ちを育てていく。

その際、学校教育全体の中で復興への意欲を高め、地域の良さや先人の知恵と志の高さ、産業と自然、社会との関わりを通して、「A郷土の美しい自然」、「B郷土芸能」、「C温かい人とのつながり」「D有事(災害)の際の自助・公助の精神」を培い、児童一人一人が角浜の一員であることの誇りと自覚をもって夢や希望を持ち続けていこうとする人材を育成する。

Ⅱ　取組の概要

１　「A郷土の美しい自然」に関わる取組

（１）磯そうじ

震災後増設されたウニの増殖溝の環境維持のためにつぶ貝の駆除並びに漁場のゴミ拾いをすることで地域の環境保全や産業の理解を深めた。

（２）ヒーローの旅

農家民泊や体験活動を通して町内内陸地区の歴史・文化・産業について学び、洋野町の自然の恵みや美しさを再認識する中で、土地や自然環境を生かした産業の工夫があることを学んだ。

２　「B郷土芸能」に関わる取組

駒踊り・棒舞いの伝承活動

駒踊りや棒舞いの由来や歴史を学びながら保存会のご指導のもと、踊りを通して伝承活動を継続していきたいという思いを育んだ。

３　「C温かい人とのつながり」に関わる取組

（１）角小まつり

地域の方のご協力のもと、年間を通して田植えから稲刈りまでを行い、収穫したもち米から作った餅を地域の方にふるまったり、出し物をしたりしながら地域への感謝を伝えた。地域方との交流を通して地域の一員としての自覚をより一層高めた。

（２）三ちゃん凧あげ大会

凧作りや凧上げ大会を通して、三世代間や地域の方との交流を図り、地域を大切にする気持ちを高めた。

４　「D有事(災害)の際の自助・公助の精神」に関わる取組

（１）復興・海洋講演会

小中合同で一般社団法人日本キリバス協会代表理事ケンタロ・オノ氏の講演『地球温暖化最前線国・キリバスのこと』を聞き、環境保全の大切さや各校が行っている浜清掃や磯そうじの意義・関連を深めた。

（２）津波の学習会

津波のメカニズムについて種市高校海洋開発科の生徒に出前授業をしてもらった。津波モデルでの実演・実験を通して津波の深さと速さの関係を理解し、津波から身を守る方法について考え、防災意識を高めた。

（３）震災学習列車

三陸鉄道の震災学習列車に乗車と角浜との地形の違いを見学することを通して復興の様子や防災の取り組みを学び、自然災害への心構え、自らの生き方、あり方等について考えた。

（４）避難訓練

地震を想定した避難訓練の実施及び復興副読本を活用した学習を行った。煙道体験や消防署の方の話を聞き、防災の意味や意義、実際に災害に合った際の行動について理解を深めた。

５　ＡＢＣＤが相互に係る取組

（１）海と仲良し〈１・２年生〉

自分たちが住む角浜や海について興味関心をもち、角浜地域にある自然や社会、人々や生き物との触れ合いから、地域や海のよさを知る活動を行った。

（２）角浜調査隊〈３・４年生〉

角浜地域が人々の努力や工夫によって支えられていることに課題探究活動を通して気付きながら、自ら進んで地域社会に関わろうとする意識を高める活動を行った。

（３）ふるさと角浜〈５・６年生〉

角浜地域の人々の願いについて理解を深めながら、進んで地域社会に関わり、課題探究活動を通して自分と実生活・実社会の問題の解決について考える活動を行った。

（４）海洋教育子どもサミット in ひろの

洋野町の復興教育である海洋教育で学んだ防災についてポススターセッションで発表を行った。

Ⅲ　取組の成果と課題

１　成果

（１）郷土の美しい自然について

角浜の海や生き物、産業に対する興味や自然への関心が高まると共に郷土角浜への愛着をより一層持つことができた。

角浜を支える地域の人の苦労や努力に触れることで、地域の環境や産業の保全をしようという意識が高まった。

（２）郷土芸能について

地域で守り、受け継がれる舞いへの理解を深め地域理解のよい契機となった。

（３）温かい人とのつながりについて

角浜地域が人々の努力や工夫によって支えられていることを実感する中で、地元に対する愛着や地域の方に対する尊敬の気持ちをより一層もつことができた。

（４）有事(災害)の際の自助・公助の精神について

災害が起こる仕組みや怖さやについて理解を深めるとともに、災害に対する予防や実際起きた時の行動について考えることができた。

自分たちの地域に目を向けつつ、他の市町村の震災による被害や復興の状況を学ぶことで防災について多面的・多角的に考えることができた。

２　課題

（１）家庭と連携した防災意識の向上を図る。

校内での防災意識はある程度身に付けているので、さらに家庭や地域、他校と情報を共有するなどの連携の体制を整えていく必要がある。

（２）年間計画を見直し、見通しのある活動を行う。

地域防災や復興・発展に関わる指導を継続的、組織的に行うために、学年や児童の実態に即した年間計画の見直しが必要である。取り組み状況に応じた PDCA サイクルを体系化できるよう見直していきたい。本校は、小規模複式の学校であることも鑑み、職員配置にも気をかけ、円滑な活動を行うための工夫も必要である。